翠巒
Mini Press
第177号
2022/8/19

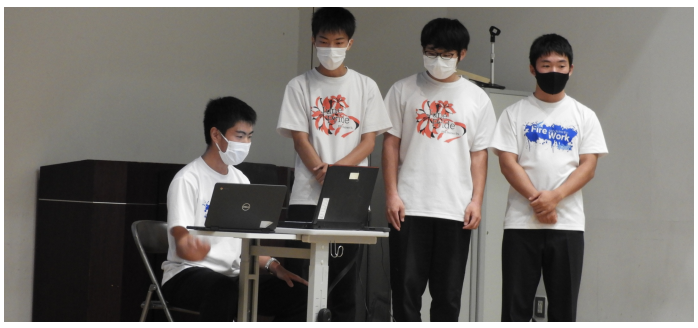
編集・発行
高崎高校新聞部

課題研究の最終成果発表

受験勉強では得られない学び

高高は3年間を通して様々な事業を行なっている。その一環として行なわれる課題研究では、受験勉強では得ることのできない、社会に出てから役立つような学びを得ることができる。

7月16日には3年生による課題研究の最終成果発表が行なわれ、先生からのアドバイスを受けながら自分の研究について反省を行なった。課題研究を行なった3年生の中で、クロスフロー型風力発電機について研究した飯島拓己くん（3の1）に話を聞き、研究における実験の際に気を付けるべきだった点や、データの取り方について振り返った。



発表を行なう3年生

高高はSSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定校である。SSH指定校とは先進的な理数教育を行なう高等学校のことであり、その中でも本校は「Society 5.0時代を引率するリーダーとしての資質、能力を備えた人物を育成すること」を目標に、さまざまな活動に取り組んでいる。その中でも中心的な課題研究では、自分で立てた問いについて研究する。

1年次には、全員が各々の興味・関心に応じた自由な問いを立てて研究し、発表を行なう。その中でより良いものについてグループで研究し、発表を行なう。2年次以降は、普通クラスとSSHクラスに分かれる。普通クラスでも、2年生では社会課題の解決に向けた研究に、3年生では自己探求に取り組む。

一方、SSHクラスでは、2年間かけて、理数分野に特化したより専門的な研究を行なう。大学教授による講演の機会もあり、自身の研究に活かすことができる。SSHクラスでは3年次に、従前の研究の最終成果を発表する。今年の発表会では、ゲームや発電方法など多岐にわたるテーマの発表が行なわれた。

その中で、クロスフロー型風力発電機について調べた飯島拓己くん（3の1）に研究についての話を聞くと、「群馬県のからっ風を風力発電で有効活用できないか考えたところ、設置の際に環境負荷が小さく、さまざまな場所で発電可能なクロスフロー型風力発電機を見つけたため研究しようと思った。また、実験を行なう際に対照実験となるようにし、風車が自作であることや風速が一定でないことを考慮し実験回数を増やした。しかし、実験の条件をさらに細かくし正確なデータを取るべきだった。課題研究を通して、研究に必要なR-PDCAサイクルや、データ処理の方法について学べた。また、研究を進める中で、様々な意見にふれ、広い視野での物事の見方についても学べた」と述べた。

SSH活動は自分を磨く良い機会なので積極的に取り組んで欲しい。（樋口）

高高生に聞く 高高購買の実態

高高には購買がある。そこで購買をどのように利用しているのか、全校生徒に対しアンケートを行なった。

初めに、「購買を利用しているか」を聞くと、「利用している」と答えた人が59%だった。一方で、「利用していない」と答えた人は41%で、その理由は、「弁当で十分だから」というものが多かった。

次に、購買を「利用している」と答えた人に、「利用頻度」と「利用目的」を聞いた。頻度は「1週間に1、2回」と答えた人が約半数を占め、目的については、「お弁当に追加するため」、「放課後などに食べるため」という意見が多く見られた。

今回のアンケートを通して、高高生は基本的に弁当を持参し、それだけでは足りない場合に購買を利用する人が多い傾向にあることがわかった。（新井）

後期首席に聞いた 文武両道の秘訣

勉強に励む鈴木くん

高高は群馬県で1、2を争う県内有数の進学校であり、広い地域から優秀な生徒が集まっている。その難関高校の後期入試において、首席という成績を収めた鈴木晴斗くん（1の1）に話を聞いた。鈴木くんは應援部と数学部に所属しているほか、生徒会役員や、翠巒祭と定期戦の実行委員としても活動している。

―勉強する上で気を付けていることは。

しっかりと理解して問題に答えられているかということだ。理解がなければ応用問題に対応できないし、理解しないで覚えるよりも理解して覚える方が楽しいと思うからだ。

―高高の良いところは。

学校行事を生徒主体でできるところだ。自分たちで考えて実行するため忙しいが、その分達成感も大きく、友達との仲も深まり、学校生活をより充実させることができる。

―高校受験を振り返っての勉強法について。

良かった勉強法は、問題を解く途中で出てきた用語から連想される用語を書き出すことだ。改善すべきだったのは英単語をただ覚えることで、発音や他の意味などの細かいところまで覚えるべきであった。（小松）

NOTE

青春18きっぷという切符をご存知だろうか。この切符はJR線全線の1日乗り放題を5回分利用できる切符で、春季、夏季、冬季にそれぞれ発売されている。価格は1205０円で、1回分は2410円とまさに破格の値段である。複数人での利用も可能である。その代わり、この切符には普通電車のみしか使うことができないという条件がある。要は、速達列車を使うことはできない▼私はこの切符を用いて日帰り旅行をすることがある。仙台や名古屋など、普通ならば新幹線を用いて行く距離の場所に普通電車のみで行くのだ。これは多くの時間を要するが、道中で寄り道をしたり、車窓をゆっくりと眺めたりして旅を楽しむことができる。新幹線などでは味わえない体験ができ、目的地での滞在時間が短くとも充実した旅行となる▼このことは高校選択にもいえるのではないだろうか。高高はいわば新幹線だ。高高に入学すれば文武両道を目標に掲げ、充実した高校生活を送れることは間違いない。しかし、高高以外の高校を志望するという選択肢も受験生は持っている▼高校受験は人生でも重要な岐路の一つである。志望校を一つの視点のみで軽率に決めるのではなく、数多ある高校をしっかりと吟味し、自分にあった高校を見つけることを強く推奨する。そのうえで高高を志望するならば、高高生徒の一員として、充実した高校生活を送ってもらいたい。（畑）

紙面割　表・樋口　裏・新井